

ARIBの動き

第65回規格会議が開催される

去る3月14日に第65回規格会議が東海大学校友会館望星の間(霞が関ビル)において開催されました。今回は、次に掲げる標準規格の策定¹件、標準規格の改定⁸件及び技術資料の改定³件について審議され、すべて提案のとおり承認されました。



第65回規格会議の会場の様子

- 1 特定小電力無線局433MHz帯国際輸送用データ伝送用無線設備標準規格の策定
- 2 IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System 標準規格及び技術資料の改定
- 3 CSデジタル放送用受信装置標準規格（望ましい仕様）の改定
- 4 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格の改定
- 5 デジタル放送用受信装置標準規格（望ましい仕様）の改定
- 6 デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格の改定
- 7 デジタル放送におけるアクセス制御方式標準規格の改定
- 8 地上デジタル音声放送用受信装置標準規格（望ましい仕様）の改定
- 9 デジタル放送における映像符号化、音声符号化及び多重化方式標準規格の改定
- 10 地上デジタル音声放送運用規定技術資料の改定
- 11 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料の改定

今回の策定及び改定の概要は次のとおりです。

1 特定小電力無線局433MHz帯国際輸送用データ伝送用無線設備標準規格 (ARIB STD-T92 1.0版)

本標準規格(ARIB STD-T92 1.0版)は、電波法施行規則第6条に規定される特定小電力無線局の用途のうち、国際輸送用貨物の管理の業務の用に供するための国際輸送用データ伝送用であって、無線設備規則第49条の14第3号に規定された433.67MHzを超え434.17MHz以下の周波数の電波を使用する無線設備について規定したものです。

本標準規格の対象システムは、433MHz帯アクティブタグシステムであり、主として港湾、空港、工場または倉庫に設置され、アクティブタグの始動又は停止及びデータを伝送するイントロゲータと、国際輸送用貨物に装着されるアクティブタグからなります。

なお、アクティブタグとは、内蔵した電池等からのエネルギーにより自動的に電波を発射することができるものです。

本標準規格は、国際輸送用データ制御設備（イントロゲータ）と国際輸送用データ伝送設備（アクティブタグ）の無線設備の技術的条件について規定しました。

特に、国内制度において「筐体の見やすい箇所に、当該無線設備は国際輸送に係る場合においてのみ電波の発射が可能である旨が付されていること。」との規定に対しては、任意規格として具体的な表示方法の例、文字の大きさ、表記内容等を本文中に記載しました。

2 IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System標準規格及び技術資料 (ARIB STD-T63 Ver.6.10及びARIB TR-T12 Ver.6.10)

2006年12月開催の3GPP TSG第34回会合において追加又は修正が承認されたリリース99、リリース4、リリース5、リリース6及びリリース7の仕様の導入のための改定を行いました。

主な改定点は、リリース7に追加された新規の仕様書の追加、TDD方式 3.84Mcps optionのHSDPAのための端末テスト仕様の追加及びFDD方式 Inter-Band operationのための端末テスト仕様の追加です。

3 CSデジタル放送用受信装置標準規格（望ましい仕様）(ARIB STD-B1 2.0版)

今回、規格書全体の構成を2部構成とし、従来の狭帯域CSデジタル放送用受信装置の規格を第1部、高度狭帯域CSデジタル放送用受信装置の規格を第2部とする構成に変更しました。

第1部 狭帯域CSデジタル放送用受信装置においては、「第8章 高速デジタルインタフェースの望ましい仕様」において、media_type（メディア分類）の種類に、広帯域CSと高度狭帯域CSを追加しました。また、参照規格等の最新情報への更新、表現の統一、表現の明確化、誤記の修正等の改定を行い、映像パラメータとして使用されていないパラメータを削除しました。

第2部 高度狭帯域CSデジタル放送用受信装置においては、高度狭帯域CSデジタル放送に対応する受信機仕様として全体を新規に作成しました。高度狭帯域CSデジタル放送は、伝送路符号化方式としてDVB-S.2、映像符号化方式としてH.264 | MPEG-4 AVC、音声符号化方式としてMPEG-2 AACを用いるものです。また、DVB-S.2、H.264 | MPEG-4 AVC、MPEG-2 AACについて、解説又は運用ガイドラインを作成しました。

4 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格 (ARIB STD-B10 4.4版)

平成十五年総務省告示三十七号の改正に基づき、高度狭帯域CSデジタル放送に関し、衛星分配システム記述子の改定及びシステム管理記述子の改定を行いました。

また、ネットワーク識別の割当状況の更新を行いました。

5 デジタル放送用受信装置標準規格 (望ましい仕様) (ARIB STD-B21 4.6版)

STD-B1の改定に伴うメディア分類の修正及び誤記訂正を行いました。

なお、第6項以降の策定及び改定の概要は、次号で紹介の予定です。

第127回業務委員会が開催される

第127回業務委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成19年3月13日(火) 午前10時から11時40分まで

2 場所 当会第3会議室

3 議事概要

次の事項について事務局から説明がありました。

- (1) SMPTEとのMoU締結について
- (2) アナログ周波数変更対策業務について
- (3) 当会の活動状況について

4 その他

大賀委員長から退任の挨拶がありました。

SMPTE日本会合が開催される

去る3月5日(月)～9日(金)、機械振興会館(東京都港区)において、(社)電波産業会がホストになり、16社の協賛のもと、SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers)日本会合(*)が開催されました。会合には10か国から90名を超える参加がありました。

SMPTEの諸規格は、放送局、特にスタジオにおいて運用される機器に多く適用され、放送事業者、放送機器メーカー等に大きな影響を持っており、当会のス

タジオ設備開発部会の活動と密接に係わっています。

今回の会合では、ネットワーク化の進展に対応した、メタデータ、放送素材のファイルフォーマット、映像圧縮方式などに関する審議がそれぞれのセッションで活発に行われました。出席者が最大となったデジタルシネマのセッションでは、ハリウッドからの電話会議参加者を交えて議論が展開されました。

また、今回、ARIBとSMPTEの間で相互協力に関するMoU（覚書）を締結しました。今回の日本会合を機に、両者の関係が今後ますます発展することが期待されます。

(*)SMPTE日本会合は、以下のTC(Technology Committee) Meetingsなどで構成されています。

V16(テレビジョン映像記録)、S22(テレビジョンシステム)、I23(テレビジョンイメージ)、C24(映像圧縮技術)、W25(メタデータ・ラッパー)、N26(ファイル管理とネットワーク技術)、D27(データエッセンス技術)、DC28(デジタルシネマ)、A29(テレビジョン音声技術)、R30(登録・ID技術)



SMPTE日本会合（Committee on Digital Cinema：DC28）の様子

編集後記

今月7日気象庁発表の第1回さくら開花予想では東京都心の開花は3月18日ということで、今週からは花見シーズン真っ盛りになるかと思っていたら、14日になって開花予想用プログラムに一部不具合があり、訂正されていました。全国4地点（東京、静岡、高松、松山）でミスがあり、予想より大幅なずれ込みが発生したとのことです。

静岡市の開花は観測史上最も早い¹³日となっていたが、この日になっても開花の兆候が見られず調べてみて誤りがあることに気が付いたらしい。「後出しじゃんけん」のようなもので、何ともお粗末！

因みに、¹⁴日に発表された第2回の開花予想では、東京都心の開花は²³日とのこと。これだけ大幅に予想が変更になると、最初の開花予想で行事を予定されていた方は日程の変更等で大変だと思います。皆様の中にも影響を受けられた方がいらっしゃるのではないのでしょうか？

(N.K)

[ページの先頭に戻る ▲](#)